

自己評価表

令和8年6月1日

1.学校の教育目標

個々の生徒の個性・能力を生かし、食の安全を通して人類の幸福を実現する為に考え行動し社会に貢献できる調理師・製菓衛生師を養成する。このために如何なる調理技術にも対応できる基礎力と応用能力および自然に及ぼす効果と影響について多面的に考え創製する能力を培う

2.本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ・社会環境の変化に対応する学校づくり
- ・社会に認められ、社会貢献できる人材の育成
- ・資格習得に向けた実力の養成

目指す学生像:

自主的、継続的に学習する能力
与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
チームで仕事をするための能力
論理的な思考に基づくコミュニケーション能力

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
評価項目	4	3	2	1
・理念・目的・育成人材は定められているか (専門分野の特性が明確にたっているか)	7	0	0	0
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	0	0
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	0	0
・理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	5	2	0	0
・各学科の教育目標、育成人材は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	3	4	0	0

①課題

社会経済のニーズに対応できる方向で進められているかの確認

②今後の改善方策

社会経済のニーズに対応できる態勢作りを進めていく。

(2) 学校運営

	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
評価項目	4	3	2	1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	7	0	0	0
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	0	0
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	6	1	0	0
・人事、給与に関する制度は整備されているか	3	4	0	0
・教務・財務等の組織整備など意識決定システム体制が整備されているか	4	3	0	0
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	0	0
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	6	1	0	0
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	4	0	0

①課題

- ・教務・財務等の連携の強化
- ・情報システムの適切な運用体制の構築

②今後の改善方策

- ・情報の活用
- ・教員の連携と情報共有

(3) 教育活動

	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
評価項目	4	3	2	1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	5	2	0	0
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	6	1	0	0
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	7	0	0	0
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	5	2	0	0
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作 見直し等が行われているか	7	0	0	0
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	7	0	0	0
・授業評価の実施・評価体制はあるか	7	0	0	0
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	7	0	0	0
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	6	1	0	0
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	7	0	0	0
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している	7	0	0	0

(4)研究活動

	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
評価項目	4	3	2	1
・関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供を確保するなどマネジメントが行われているか	6	1	0	0
・関係分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	3	0	0
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	4	0	0

(5)地域貢献(社会との連携)

	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
評価項目	4	3	2	1
・学校の教育資源や施設を活用した社会的貢献・地域貢献をおこなっているか	3	4	0	0
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	4	0	0
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	2	5	0	0

①課題

公開講座などの活用

②今後の改善方策

オープンスクール等地域貢献授業の開催

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合結果

在学1年という限られた期間やその間における授業時間の確保、学生毎の習得度の把握など多くのテーマがあるなかで今後とも学生の「満足度」の向上を目指す取組を教職員一体となって継続して実施する必要がある。

社会環境が変化し、指導方法に苦慮する中、概ね適正な指導ができたと評価する。

令和8年度も教育環境の向上等が課題となっており、講師一同コミュニケーションを強化し生徒の教育に邁進することが必要である。

評価基準を、認識し態勢の改善に向け常に意識を持った活動を計画する。